

パオちゃん's EYE

2021年11月1日 発行 No.56

タイワントビナナフシ



タイワントビナナフシ（雌），2008年，倉敷市産。
左：はねを広げた標本；右：はねを閉じた標本。

倉敷市立自然史博物館には、その後、岡山県南部から中部の各地の標本が集まってきます。本種は植物体に卵をくっつけてばらばらに産む習性があり、栽培植物等の人為的な移動に伴って急速に分布を広げている可能性があります。さらに、雄と交尾することなく雌だけで子孫を残すことができる（単為生殖）ことから、たった1個の卵の移動が新たな生息地の発端となり得ることも本種の強みとなっています。

タイワントビナナフシは、もともと南方系の昆虫で、岡山県からは分布が知られていませんでした。

2007年の秋、当時小学生だった岸戸琢朗さんの昆虫標本に本種の標本を見つけました。従来、岡山県に分布するトビナナフシ類は体長4~5cm程度なのですが、タイワントビナナフシは体長約8cm、脚を伸ばした状態では15cm近くもあり、はるかに大きいので、すぐに目に留まりました。標本は2006年と2007年に倉敷市内で採集されたもので、これが岡山県での初記録として発表されました（岸戸康浩，2008，月刊むし，445:44）。

写真の標本は、2008年に採集された個体を岸戸さんが届けてくれたものです。以上の記録はすべて近接した場所で、何年も続けて見つかることから、同地にはすでに定着していると考えられました。

奥島雄一（昆虫担当）

パオちゃんズアイに関するお問い合わせは

倉敷市立自然史博物館

〒710-0046 岡山県倉敷市中央 2-6-1

電話:(086)425-6037 FAX:(086)425-6038

E-mail:musnat@city.kurashiki.okayama.jp

博物館ホームページには

いろんな情報がいっぱい♪

「倉敷市立自然史博物館」で

検索してみよう！ パオより

